

問1 明治新政府が1868年に発表した五箇条の御誓文において、「広く会議ヲ興シ、万機公論ニ決スベシ」という一文を盛り込んだ背景として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 特定の藩や人物による独裁を避け、広く諸藩の意見を取り入れて政治を行う姿勢を示す必要があったから
2. 江戸幕府の旧来の制度をそのまま引き継ぎ、将軍が中心となって政治を行うことを宣言するため
3. 天皇がすべての政治判断を一人で行い、国民はそれに従うだけでよいという強い権威を示すため
4. 外国との不平等条約を直ちに破棄し、再び鎖国体制に戻ることを国内外に知らせるため

問2 明治政府が、それまでの「収穫量に応じた米による納入」から、地租改正によって「地価を基準とした現金による納入」へと税制を変更した主な理由は何ですか。（2019年 香川県公立入試 類似）

1. 天候や豊凶による収穫量の変動に左右されず、政府の税収を安定させるため。
2. 農民が市場の価格変動を利用して、より高い利益を得られるようにするため。
3. 欧米諸国からの圧力により、日本の通貨価値を国際基準に合わせる必要があったため。
4. 武士の特権を維持するために、米よりも管理が容易な現金を蓄える必要があったため。

問3 明治維新が始まった1868年を含む「19世紀」の国際情勢を説明した文として、当時の日本の状況と関連が深いものはどれですか。（2019年 福島県公立入試 類似）

1. 産業革命を達成した欧米列強が、原料や市場を求めてアジアへの進出を強めていた。
2. アメリカ合衆国がイギリスから独立を宣言し、民主主義に基づいた新しい国家を建設していた。
3. 第一次世界大戦が勃発し、それまで世界を主導していたヨーロッパ諸国の地位が低下し始めていた。
4. 大航海時代の影響でスペインやポルトガルの勢力が拡大し、キリスト教の布教が日本にも及んでいた。

問4 明治政府が実施した地租改正の仕組みについて述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 秋田県公立入試 類似）

1. 土地の所有者が、その土地の価格（地価）の3%を、豊凶に関わらず現金で納める。
2. 土地の耕作者が、その年の収穫量の3%を、地券の交付を受けた後に米で納める。
3. 土地の所有者が、収穫高を基準として算出された金額を、物価の変動に合わせて現金で納める。
4. 土地の耕作者が、地価の3%に相当する額を、政府の指示に従って米または現金で選択して納める。

問5 明治政府が租税の基準を「収穫量」から「地価」へ、納入方法を「米」から「現金」へと変更した目的として、最も適切な背景を選びなさい。（2014年 沖縄公立入試 類似）

1. 米の生産量を全国一律に管理し、食糧不足を解消するため。
2. 農村における地主の権限を弱め、すべての農民を自作農にするため。
3. 豊作や凶作、あるいは米価の変動に影響されず、政府の収入を安定させるため。
4. 貨幣経済の浸透を防ぎ、江戸時代のような物価の安定を図るため。

問6 明治政府が税制を整えるために行った地租改正において、政府が土地の所有権を認め、土地の所有者や地価、税率などを記載して発行した証明書を何と呼びますか。（2014年 沖縄公立入試 類似）

1. 地券
2. 地頭状
3. 検地帳
4. 割符

問7 明治維新の改革が進むなか、1869年に明治政府が全国の藩主に対し、それまで支配していた土地と人民を天皇へ返上させた政策を何といいますか。（2017年 香川県公立入試 類似）

1. 版籍奉還
2. 廃藩置県
3. 地租改正
4. 大政奉還

問8 明治維新後の日本において、福沢諭吉が『学問のすゝめ』を著し、広く読まれた背景や理由として最も適切なものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 四民平等が宣言されたものの、人々の間には依然として古い身分意識が残っており、近代国家にふさわしい個人の意識改革が必要だったから。
2. 大日本帝国憲法の発布を控え、政府が国民に対して西洋の法律や政治の仕組みを強制的に学習させる必要があったから。
3. 地租改正によって農民の負担が増大したため、生活を豊かにするための農業技術に関する知識が求められていたから。
4. 廃藩置県によって失業した士族たちが、武士の精神を維持するための心の拠り所として啓蒙書を求めていたから。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 特定の藩や人物による独裁を避け、広く諸藩の意見を取り入れて政治を行う姿勢を示す必要があったから	明治新政府は発足したばかりで基盤が不安定だったため、幕府を倒した有力な藩だけでなく、全国の諸藩の協力を得る必要がありました。そのため、一部の勢力が勝手に物事を決めるのではなく、「万機公論」すなわち開かれた議論によって政治を進めるという方針を打ち出すことで、国民や諸藩の支持を得ようとしたのです。これが後の自由民権運動において、議会の開設を求める根拠の一つにもなりました。
問2	答え 1 天候や豊凶による収穫量の変動に左右されず、政府の税収を安定させるため。	近代国家としての歩みを始めた明治政府にとって、安定した国家予算の確保は急務でした。それまでの年貢は収穫量に応じて変動したため、凶作の際には政府の収入が激減するリスクがありました。基準を「地価」という固定的なものにし、納税方法を「現金」に統一することで、政府は天候に関わらず計画的な財政運営を行うことが可能になりました。
問3	答え 1 産業革命を達成した欧米列強が、原料や市場を求めてアジアへの進出を強めていた。	19世紀は欧米諸国が工業化を進め、強力な軍事力を背景に植民地を拡大した帝国主義の時代です。日本が明治維新によって急速な近代化を急いだのは、こうした列強のアジア進出という国際的な圧力の中で、独立を守り対等な立場を築く必要があったという背景があります。アメリカ独立は18世紀後半、第一次世界大戦は20世紀初頭、大航海時代は15～16世紀の出来事です。
問4	答え 1 土地の所有者が、その土地の価格（地価）の3%を、豊凶に関わらず現金で納める。	明治政府は近代国家としての財政を安定させるため、1873年から地租改正を実施しました。それまでの「収穫高に応じた米での納付（年貢）」から、「地価を基準とした現金での納付（地租）」へと大きく転換しました。この際、政府は土地の所有者に地券を発行して所有権を認めるとともに、納税の義務を耕作者ではなく土地の所有者に課しました。
問5	答え 3 豊作や凶作、あるいは米価の変動に影響されず、政府の収入を安定させるため。	米による物納では、天候による収穫量の増減や市場での米価の変動によって、政府が得られる税収が毎年不安定でした。近代国家として計画的な予算を立てるためには、安定した現金収入が必要であったため、収穫量に関わらず土地の価値に応じた一定額の現金を徴収する制度が導入されました。
問6	答え 1 地券	地租改正では、まず土地の測量と収益性の調査が行われ、その結果に基づいて土地の所有者には「地券」と呼ばれる証書が交付されました。この地券には土地の面積だけでなく、その土地の資産価値を示す「地価」や、それに対して課せられる税率が明記されました。これにより、政府は誰がどの土地を所有し、どれだけの税を納めるべきかを正確に把握し、近代的な徴税システムを構築しました。
問7	答え 1 版籍奉還	「版」は土地（地図）、「籍」は人民（戸籍）を指します。戊辰戦争を経て成立した明治政府が、幕藩体制を打破し、中央集権国家を樹立するために最初に行った重要な手続きです。これにより、形式的には全国の土地と人民が天皇の統治下に入ることとなりました。
問8	答え 1 四民平等が宣言されたものの、人々の間には依然として古い身分意識が残っており、近代国家にふさわしい個人の意識改革が必要だったから。	明治政府は四民平等の政策を打ち出しましたが、長年続いた封建社会の影響は強く、国民の意識を近代化させる必要がありました。福沢諭吉は、一人ひとりが学問を通じて知性を磨き、独立した精神を持つことが国家の独立にもつながると考え、啓蒙活動を行いました。この本がベストセラーとなったのは、新しい時代の生き方を模索していた当時の人々に強く響いたためです。